

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503759		
法人名	有限会社 時館		
事業所名	グループホーム あいあるみすまい (すみれ)		
所在地	札幌市南区簾舞3条5丁目 8-33		
自己評価作成日	平成22年11月9日	評価結果市町村受理日	平成23年1月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigoqhoc-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170503759&SCD=320
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流が盛んに行われ、事業所で毎年主催する「納涼祭」には地域の方々も招待し、職員の家族等多数参加してバザーやゲームなどの催しを楽しんでもらっている。町内会の方々も非常に協力的で、事業所の行事には用具を貸し出してくれた。災害時の協力体制等、多くの支援を頂いている。スタッフのスキルアップや親睦を深める事を目的とした研修やグループ内での勉強会、交流研修も盛んに行われている。法人全体として「楽しい職場」に取り組み、有休休暇の消化推奨の為に人員配置や、ホスピタリティ委員会を設けている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成22年12月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設5年目を迎える当ホームは、バス停近くに位置しています。地域の方々の深い理解をいただき、密接な交流が継続されています。町内会の新年会、総会、清掃活動に、職員は積極的に参加しています。招待をいただいた各種行事での小学生との触れ合いは、利用者の顔がほころぶひとときでもあります。ホームの納涼祭には、前日から草刈り、会場作り、後片付けなど、町内会長を始め、町内の方々の協力をいただき、ホームの関係者は感謝の意を表しています。ホームの人間関係も良好な中、利用者に寄り添いケアサービスに取り組んでいる職員に、家族から感謝と信頼の言葉が寄せられています。目標を高く掲げ、一步一步着実に前進している「あいあるみすまい」です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関やスタッフルームに掲示し、職員は毎日、理念に基づくケアが出来たかどうかを振り返る機会を持ち、自己評価している。	地域との関係性を謳った経営理念を新に作り上げ、さらに、ケア理念に代えて、ユニット毎に5箇条からなる「マナー」を掲げ、日常業務や会議で実践の確認に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に、参加している。近くの児童会館の催しや、小学校の音楽会にお誘いを受け可能な限り参加している。またホームで行う「納涼祭」には地域の方にも開放している。	町内会の新年会・総会、祭、また児童会館・小学校の行事に参加し、さらに、地域の方々の協力をいただき「納涼祭」を開催しています。回覧板で、ホームの活動を周知しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	みすまい通信を町内に回覧して頂き、ホームの様子を紹介し、理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年より構成メンバーを増員し、多くの意見を反映出来る体制としている。また会議の内容、場所も検討しホールで開催することで入居者の表情や様子を感じ取って頂けるようにしている。	ホームの質の向上に繋がる意見交換が行われています。避難訓練後に会議を開催し、課題を含め、消防署、メンバーの方々と協議を行い、連携強化の確認に至っています。	自己・外部評価の公表、ホームや町内会の懸案事項等の議題提示、職員の参加などや、家族に議事録を送り、会議を開催する意義の理解に繋がる取り組みに期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の管理者連絡会にて、意見交換やアドバイスを受けることが出来ている。市の担当者とは、その都度、的確なアドバイスがもらえる関係作りが出来ている。	行政とは行き来する機会があり、情報交換やホームの課題（困難事例、事故報告等）に対し、適切な助言をいただき、運営に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの入り口ドアに開閉時に音になるような工夫をして日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。利用者が外出しようとした時は制止しないで声をかけ、一緒に出かけている。	身体拘束については、重要事項説明書に記載しています。研修や会議、日々の業務で職員に周知を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めています。利用者の出入りは、職員の見守りや、ユニット入口のチャイムで確認しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての外部研修に参加し、学んできた事をミーティング時に報告し、共有し、時には話し合う事で防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政機関に問い合わせや、出向いて説明を受け、必要と思われる利用者には活用できるよう支援をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の説明については、時間をかけ、十分に理解頂けるようにおこなっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明記した重要事項説明書やポスターをホーム内に掲示している。運営推進会議において家族代表のメンバーの方から、意見要望等頂いている。玄関に意見箱を設置している。	意見箱設置や外部相談窓口を伝え、利用者の要望は会話の中で、家族からは訪問時や電話で把握しています。居室の清掃徹底や、義歯の洗浄強化等の取り組みがありました。	意見箱は活用されておりません。以前実施されたアンケートに於いても、要望は十分把握されていませんので、アンケートの工夫や、対応記録の整備等で、家族の心情を受け止める取り組みに期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、グループ内での運営者、管理者、ユニットリーダー参加で会議を行い意見や提案を聞く機会を設け反映している。都度、職員との面談を管理者が行っている。	管理者は、常に職員の意見把握に努め、さらに、運営者は、管理者と話し合う機会を設け、ホームの質の確保に努めています。除雪は、要望に応え業者に依頼しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人の目標を明確にし、達成出来るようサポートしている。有休休暇の消化推奨の為に人員配置を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修には積極的な参加を働きかけている。またグループ内において定期的に勉強会を開き、ユニット毎に勉強会の内容についての企画を立てる等、向上心を持って働けるよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修に参加や、他のホームを見学する事によって、情報交換を行い、サービスの質向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、本人や家族の困っている事等を雰囲気や言葉から察知し受け止める努力をし、安心して入居生活が始められるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず面接を行い、本人や家族の困っている事等を雰囲気や言葉から察知し受け止める努力をし、安心して入居生活が始められるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報を整理し、その時点での必要性を考慮し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者に、日常生活の様式・文化・習慣等、コミュニケーションを通し、相互の理解を図っている。家事についても利用者が得意な事を手伝って頂き、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での近況報告の他、家族参加の行事を企画し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人の方々が面会に来てくださったり、遠方の兄弟と便りのやり取りが出来るよう支援している。面会時には、さりげなく気配りを行っている。	馴染みの方がホームを訪れた時は、ゆっくりと過ごしていただいています。100歳を迎えた利用者のお祝いを、家族の下であることを提案し、送迎を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の役割分担が自然と出来ている。食事の配膳、食器洗いから収納までそれぞれが声をかけあって行われている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の了解があれば可能です。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりや会話の中にある本人の意向を介護記録に残し、職員間でも話し合い、把握に努めている。	介護記録に記載されている会話の内容や、行動、仕草、家族の情報を参考に、利用者の思いや意向を把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族や以前過ごされていた場所からの情報を元に、職員間でも話し合いを行い把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は記録に残し、ミーティングで話し合い、また毎日の申し送りでも、個人の様子を伝え変化があれば、他の職員に伝える等している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング等で必要があれば、モニタリングを行い、各担当者と介護支援専門員が主となり作成している。	利用者や家族の意向を踏まえ、担当職員と介護支援専門員が中心となり、全ての職員の意見が集約された介護計画を作成し、3ヵ月毎に見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の会話や状態を記録し、排泄状況、食事水分接種状況等を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医受診、外出、外泊、買い物に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア、学校、児童館からの催しへの招待や、防災訓練時は、地域の方の協力を受けて実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	非常勤の看護師を配置し、利用者の状態は日々の暮らしの中からもよく理解し、健康管理上の助言を受けている。また受診記録や受診時参考ノートを作成し支援を行っている。	協力医療機関による月2回の往診、かかりつけ医への受診支援をしています。受診時に情報提供し、さらに、受信結果報告書で、関係者の共有を図っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常会話や入浴時など、様々な場面で気づいた情報を伝え、指導及び助言を受けながら、受診へつなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院への情報提供を行い、ホームでの状況を伝えていく。又、入院中にも治療経過など聞き、連携をとっている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の病状などの変化に応じて、主治医や家族と相談を持ち、方針を決めている。必要時は他方面からの情報ももらっている。	重度化に関わる指針を説明し、同意書をいただいています。これまで、看取りは経験がなく、今後、看取りに向けて、関係者の意識統一を図る取り組みを検討しています。	看取りに向けて、職員の更なるスキルアップや、受け入れ時の環境整備等の課題を検討し、急変時には、関係者と密接に協議を重ね、方針を共有する意向ですので、その実行に期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等を開き、応急手当の方法などの訓練を行っている。また、実際の場面での対応も出来ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等、定期的に行っており、地域の方も一緒に訓練に参加されたり、意見をもらっている。また防火実技研修にも参加している。	消防署の指導の下、夜間想定避難訓練には10名の地域の方々の協力をいただき、その後、運営推進会議で課題が協議されています。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に目上の方である事を意識し、言葉には注意を払っているが状況によっては、冗談を交えるなど笑顔でいられる声掛けをしている。	利用者の人格を尊重し、名前の呼び方、入浴、排泄、着替え時の対応に配慮しています。個人記録も適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の様々な場面において、こちらの押しつけにならないように配慮し、出来るだけ選択出来る声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大きな日課としての時間配分はあるが、出来るだけ利用者のペースに合わせ、声をかけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特に外出などの時は、季節や天候に合わせた服装に気をつけている。化粧の習慣のある方には、化粧品を用意している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片づけは職員と一緒に 行っている。また、本人の食べ易さや 好みを考えて、食事を楽しんでもらえ るように提供している。	献立は、法人全体の共有ですが、月曜日の 夕食は、利用者の希望を反映し、食事 の作業と一緒に楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている	水分量、食事量のチェックを行い、発 汗や尿の回数、残食量を把握し、その 方にふさわしいカロリー摂取が出来 るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を している。また、気になる事がみられ た場合は協力医と連携し支援してい る。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で個人のパターンを把 握している。トイレ誘導時にはさりげ なく気配りをし、トイレで排泄でき るよう支援している。	チェック表で排泄パターンを把握し、 言葉かけや誘導で、トイレでの排泄 支援をし、失敗を減らす取り組みを 行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個 々に応じた予防に取り組んでいる	水分の補給や工夫、運動の励みによ り、下剤の使用を最小限に抑えるよう にしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合 わせて入浴を楽しめるように、職員 の都合で曜日や時間帯を決めてしま わずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、本人の意向に沿った入 浴時間に行っている。入浴中は職員 と1対1でゆっくりと会話を楽しま ながら、入浴して頂いている。	週2回入浴を基本とし、月～土曜日は、 入浴できる態勢を整えています。足 拭きマットも、毎回取り替え、清潔 保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	本人の体調を考慮しながら日中は出 来ただけ離床して頂いている。また入 床時に不安になる利用者には、本人 が安心出来る声掛けと対応を行って いる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変化 の確認に努めている	薬の目的や副作用について、確認し、 薬の変更時にも体調の変化に気を配 っている。また、薬についての研修 にも参加し、情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事を把握し、役割意 識の中で生活出来るよう支援してい る。また、職員が間に入り、利用者 同士の会話が楽しめるように支援 している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添い、都度散歩等している。地域のお祭り等にも参加している。また、家族のお見舞いに行けるよう、働きかけている。	利用者の希望により、散歩や買い物は、日常的に支援しています。月に1回、利用者の意向に沿い、花見、鯉のぼり見学、足湯等の外出を企画しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方については、外出時に買い物を楽しんで頂いたり、ホーム前の自販機で飲み物を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望があれば、電話の取り次ぎや手紙のやり取りが出来るよう支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者との季節感のある製作物を飾ったり、庭の花を観賞出来る位置にソファを設置している。	居間には畳コーナーを設置し、利用者の寛ぎの場になっています。季節毎の飾り物や、行事の写真が掲示され、家庭的な雰囲気を醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前のソファや畳のスペースを設置し、いつでも好きな時に座れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、馴染みのあるもの(仏壇、ラジカセ、ベット等)を持ってきたりしている。	クローゼットが設置された居室には、利用者や、家族の意向が反映された家具や調度品が配置され、居心地の良さが感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすでも充分に移動出来るようなスペースをとり、歩行に不安な方には壁等に手すりを作り、自立した生活が出来るよう支援している。		